



「贈る言葉」

チャプレン トマス 河村博之

2023年になりました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年もコロナ禍の中、ある程度の制約が予想されますが、ともに過ごしてまいりましょう。

この季節、いつも思い起こす言葉があります。旧約聖書の預言者エレミヤに語られた主の言葉です。

『主はわたしに言われた。「若者にすぎないと言ってはならない。わたしがあなたを、だれのところへ遣わそうとも、行って、わたしが命じることすべて語れ。彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて、必ず救い出す」と主は言われた。』(エレミヤ書1章7-8節)

エレミヤは、主なる神様から預言者という役目を負うべく任命されました。しかし、人々の前で語る言葉も知恵もないこと、若者にすぎないことを理由に断ります。聖書に描かれる預言者は、神様の言葉を人々に伝えるという役目がありました。人々にとってそれが、心地良いことであればよいのですが、都合の悪い、耳障りな言葉に映り、命を失うことすらありました。エレミヤがいくら神様からの指示とはいえ、躊躇したのも分かりますね。

しかし、神様は恐れるな、わたしがあなたを任命したのだから、出かけて行って命じたことを行え。必要な知恵と言葉はその時に与えると言われました。皆さんはどのように思われますか。エレミヤは神様に素直に従ったのでしょうか。20章7節に「主よ、あなたがわたしを惑わし、わたしは惑わされてあなたに捕らえられました。あなたの勝ちです。」以下、エレミヤの告白が続きます。エレミヤは、素直に従うことができず迷いのうちにいましたが、神様の執拗なほどの招きに、ようやく腰を上げることになりました。

皆さん、今年も思いがけないことが起こるかもしれません。チャペルでの活動は「あなたはどこにいますか。」という呼びかけがなされるところです。皆さんにとって心の拠りどころでありますように祈っています。

一口メモ 寄せられた質問から

「チャプレン、仕事納め礼拝はありますが、仕事始め礼拝はありませんか」といただきました。「仕事納め礼拝」は例年12月28日に行われます。世間の年末です。毎年チャペルで、昼の礼拝に当たる13:00から行っています。では、「仕事始め礼拝」はいつでしょうか。年度初めに当たる4月に新任教職員任命式・辞令交付式とともに「始業礼拝」として行われています。ここ数年のコロナの影響で任命式・辞令交付式のみが行われています。さて、来年度はどうなるのでしょうか？





ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な
子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教



A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell



ウクライナのための祈り (カード) 日本聖公会東京教区のページへ

禁複製転載 (C) St.Michael's KIU_MTF
神戸国際大学キリスト教センター

